

第 28 回ビジネス会計検定試験より抜粋

(2021 年 3 月 14 日施行)

I

次の【問 1】から【問 3】の設問に答えなさい。

【問 1】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 連結会社間で有価証券を売買した場合、連結財務諸表の作成にあたって、その売買によって発生した損益を消去する必要がある。
(イ) 満期まで保有する意図を持って保有する社債その他の債券の貸借対照表価額は、時価で評価される。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問 2】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 連結損益計算書に記載される売上高は、連結会社間取引を相殺消去する前の金額である。
(イ) 親会社がすべての子会社の株式を 100%所有している場合、連結損益計算書に非支配株主に帰属する当期純利益は計上されない。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問 3】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 連結株主資本等変動計算書では、連結貸借対照表の純資産の部を、株主資本、その他の包括利益累計額、新株予約権、非支配株主持分に区分して表示する。
(イ) 連結株主資本等変動計算書において、株主資本以外の項目の当期変動額は純額で表示する。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

Ⅱ

次の【問1】から【問3】の設問に答えなさい。

【問1】 次の項目のうち、経常利益の計算に影響を及ぼさないものの適切な組み合わせを選びなさい。

ア. 売上割引 イ. 投資有価証券評価損 ウ. 持分法による投資利益
エ. コマーシャル・ペーパー利息 オ. 負ののれん発生益

- ① アウ ② アエ ③ イエ ④ イオ ⑤ ウオ

【問2】 次の項目のうち、財務活動によるキャッシュのインフローに該当するものの個数を選びなさい。

ア. 社債の償還 イ. 貸付金の回収 ウ. 自己株式の取得 エ. 有価証券の売却
オ. 株式の発行

- ① 1つ ② 2つ ③ 3つ ④ 4つ ⑤ なし

【問3】 次の資料により、以下の文章の空欄（ア）と（イ）に当てはまる語句の適切な組み合わせを選びなさい。（金額単位：百万円）

	A社	B社
売上高	9,000	15,000
営業利益	800	1,050
資産合計	10,000	18,000
固定資産	5,000	6,000
有形固定資産	2,500	3,300
従業員数（人）	100	150

利益を生み出す従業員効率が高いのは（ア）である。また、生産効率を高めるための資本集約率が高いのは（イ）である。

- ① （ア）A社 （イ）A社
② （ア）A社 （イ）B社
③ （ア）B社 （イ）A社
④ （ア）B社 （イ）B社

Ⅲ

A社に関する<資料1>から<資料4>により、【問1】から【問14】の設問に答えなさい。分析にあたって、連結貸借対照表数値は期末の数値を用いることとし、純資産を自己資本とみなす。△はマイナスを意味する。なお、計算にあたって端数が出る場合は、小数点以下第2位を四捨五入するものとする。

<資料1> 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	X1年度	X2年度
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	50,600	55,000
受取手形及び売掛金	159,200	162,600
有価証券	109,600	98,400
棚卸資産	(ア)	15,600
その他	()	33,800
貸倒引当金	△200	△200
流動資産合計	364,800	365,200
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	53,200	62,400
機械装置及び運搬具	26,000	28,600
土地	79,400	83,200
その他	20,800	20,400
有形固定資産合計	179,400	194,600
無形固定資産		
ソフトウェア	12,400	11,000
その他	5,200	4,600
無形固定資産合計	17,600	15,600
投資その他の資産		
投資有価証券	210,400	238,400
繰延税金資産	21,600	23,000
その他	10,400	15,600
投資その他の資産合計	242,400	277,000
固定資産合計	439,400	487,200
資産合計	804,200	852,400

	X 1 年度	X 2 年度
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20,800	22,400
未払金	40,200	41,600
未払費用	49,200	56,400
未払法人税等	9,400	8,600
その他	9,600	9,600
流動負債合計	129,200	138,600
固定負債		
繰延税金負債	18,800	22,400
退職給付に係る負債	33,200	35,600
その他	5,200	10,200
固定負債合計	57,200	68,200
負債合計	186,400	206,800
純資産の部		
株主資本		
資本金	73,200	73,200
資本剰余金	140,400	140,400
利益剰余金	363,400	386,800
自己株式	△5,200	△5,400
株主資本合計	571,800	595,000
その他の包括利益累計額	35,800	44,000
非支配株主持分	10,200	6,600
純資産合計	617,800	645,600
負債純資産合計	804,200	852,400

<資料2> 連結損益計算書

(単位：百万円)

	X 1 年度	X 2 年度
売上高	()	(イ)
売上原価	399,400	424,000
売上総利益	()	()
販売費及び一般管理費	129,000	133,200
営業利益	()	()
営業外収益		
受取利息	400	200
受取配当金	2,200	2,200
持分法による投資利益	800	7,000
その他	1,200	600
営業外収益合計	4,600	10,000
営業外費用		
支払手数料	400	600
その他	200	200
営業外費用合計	600	800
経常利益	()	()
特別利益		
投資有価証券売却益	1,000	1,200
その他	1,000	2,200
特別利益合計	2,000	3,400
特別損失		
投資有価証券評価損	400	400
特別損失合計	400	400
税金等調整前当期純利益	()	()
法人税、住民税及び事業税	16,200	15,800
法人税等調整額	△2,400	△1,600
法人税等合計	13,800	14,200
当期純利益	()	()
非支配株主に帰属する当期純利益	600	800
親会社株主に帰属する当期純利益	()	()

<資料3> 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	X 1 年度	X 2 年度
営業活動によるキャッシュ・フロー		
()	()	(ウ)
減価償却費	()	()
投資有価証券売却益	()	(エ)
投資有価証券評価損	()	(オ)
退職給付に係る負債の増減額	2,200	2,400
受取利息及び受取配当金	()	()
持分法による投資損益	△800	△7,000
売上債権の増減額	△15,400	△3,400
棚卸資産の増減額	△1,000	3,200
仕入債務の増減額	8,200	1,600
その他	△15,200	1,600
小計	()	()
利息及び配当金の受取額	()	()
法人税等の支払額	△11,000	△16,600
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,200	47,200
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△193,200	△231,600
有価証券の償還による収入	221,400	242,800
有形固定資産の取得による支出	△16,400	△20,000
投資有価証券の取得による支出	△10,000	△30,000
投資有価証券の売却による収入	2,400	2,800
その他	△29,000	12,600
投資活動によるキャッシュ・フロー	△24,800	△23,400
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△7,600	△8,600
非支配株主への配当金の支払額	△200	△200
その他	△5,800	△6,200
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,600	△15,000
現金及び現金同等物の増減額	△12,200	8,800
現金及び現金同等物の期首残高	71,800	59,600
現金及び現金同等物の期末残高	59,600	68,400

<資料4> 報告セグメントごとの売上高、利益、資産、その他の項目の金額に関する情報

X1年度

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額	連結財務諸表 計上額 (注)
	A事業	B事業	C事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	482,800	23,200	55,600	561,600	—	561,600
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,600	800	16,800	23,200	△23,200	—
計	488,400	24,000	72,400	584,800	△23,200	561,600
セグメント利益	29,800	2,400	1,000	33,200	—	33,200
セグメント資産	515,400	33,000	82,000	630,400	173,800	804,200
その他の項目						
減価償却費	17,400	200	3,200	20,800	—	20,800
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	22,000	200	2,800	25,000	—	25,000

(注) 報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

X2年度

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額	連結財務諸表 計上額 (注)
	A事業	B事業	C事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	500,200	19,200	72,400	591,800	—	591,800
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,800	800	18,600	24,200	△24,200	—
計	505,000	20,000	91,000	616,000	△24,200	591,800
セグメント利益	29,800	1,200	3,600	34,600	—	34,600
セグメント資産	541,600	26,400	102,600	670,600	181,800	852,400
その他の項目						
減価償却費	15,400	200	3,400	19,000	—	19,000
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	24,800	100	5,600	30,500	—	30,500

(注) 報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

【問1】 <資料1>の空欄（ア）に当てはまる数値を選びなさい。

- ① 12,400 ② 14,600 ③ 16,600 ④ 18,800

【問2】 <資料2>の空欄（イ）に当てはまる数値を選びなさい。

- ① 561,600 ② 584,800 ③ 591,800 ④ 616,000

【問3】 <資料3>の空欄（ウ）に当てはまる数値を選びなさい。

- ① 31,800 ② 32,600 ③ 43,800 ④ 46,800

【問4】 <資料3>の空欄（エ）と（オ）に当てはまる数値の適切な組み合わせを選びなさい。

- ① （エ）△1,200 （オ）△400
② （エ）△1,200 （オ）400
③ （エ）1,200 （オ）△400
④ （エ）1,200 （オ）400

【問5】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

<p>（ア）正味運転資本からみると、X1年度からX2年度にかけて短期的な事業資金は大きくなった。</p> <p>（イ）当座比率からみると、X1年度からX2年度にかけて短期の支払能力は高くなった。</p>

- ① （ア）正 （イ）正
② （ア）正 （イ）誤
③ （ア）誤 （イ）正
④ （ア）誤 （イ）誤

【問6】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 固定長期適合率からみると、A社では固定資産が固定的な長期の資金源泉でまかなわれている。
(イ) 自己資本比率は、X1年度からX2年度にかけて上昇した。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問7】 次の文章の空欄（ア）と（イ）に当てはまる数値と語句の適切な組み合わせを選びなさい。

X2年度の総資本事業利益率は（ア）%であり、X1年度から（イ）した。

- ① (ア) 4.3 (イ) 改善
- ② (ア) 4.3 (イ) 悪化
- ③ (ア) 5.2 (イ) 改善
- ④ (ア) 5.2 (イ) 悪化

【問8】 次の文章の空欄（ア）に当てはまる語句を選びなさい。

X1年度からX2年度にかけて総資本事業利益率が変動した最も大きな要因は、（ア）である。

- ① 売上高事業利益率の上昇
- ② 売上高事業利益率の低下
- ③ 総資本回転率の上昇
- ④ 総資本回転率の低下

【問9】 次の文章の空欄（ア）と（イ）に当てはまる数値と語句の適切な組み合わせを選びなさい。

X 2年度の自己資本当期純利益率は（ア）%であり、X 1年度から（イ）した。

- ① （ア） 3.7 （イ） 改善
- ② （ア） 3.7 （イ） 悪化
- ③ （ア） 4.9 （イ） 改善
- ④ （ア） 4.9 （イ） 悪化

【問10】 次の文章の空欄（ア）に当てはまる語句を選びなさい。

X 1年度からX 2年度にかけて自己資本当期純利益率が変動した最も大きな要因は、（ア）の変動である。

- ① 総資本回転率
- ② 売上高当期純利益率
- ③ 負債比率
- ④ 財務レバレッジ

【問11】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

（ア）セグメント売上高利益率は、両年度ともにC事業が最も良い。
（イ）C事業のセグメント売上高利益率は、X 1年度からX 2年度にかけて低下している。

- ① （ア） 正 （イ） 正
- ② （ア） 正 （イ） 誤
- ③ （ア） 誤 （イ） 正
- ④ （ア） 誤 （イ） 誤

【問 1 2】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) X 1 年度のセグメント資産利益率が最も良いセグメントは、A 事業である。
(イ) X 1 年度から X 2 年度にかけてセグメント資産利益率が改善されたセグメントは、B 事業である。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問 1 3】 次の文章の空欄 (ア) と (イ) に当てはまる数値と語句の適切な組み合わせを選びなさい。

X 2 年度の売上債権回転期間は (ア) 日であり、(イ) の方が売上債権を短期間のうちに回収していると判断できる。

- ① (ア) 100.3 (イ) X 1 年度
- ② (ア) 100.3 (イ) X 2 年度
- ③ (ア) 103.5 (イ) X 1 年度
- ④ (ア) 103.5 (イ) X 2 年度

【問 1 4】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 自己資本営業キャッシュ・フロー比率からみると、現金創出能力は X 1 年度から X 2 年度にかけて低下している。
(イ) 営業キャッシュ・フロー対流動負債比率からみると、短期の安全性は X 1 年度から X 2 年度にかけて低下している。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

《解答・解説》

I

【問1】 ②

(イ) 満期保有目的の債券の貸借対照表価額は、取得原価または償却原価法によって算定された価額となります。

【問2】 ③

【問3】 ①

II

【問1】 ④

イは特別損失、オは特別利益に分類されます。

【問2】 ①

オが該当します。

【問3】 ②

(ア) 1人当たり営業利益

A社：8（百万円）

B社：7（百万円）

(イ) 資本集約率

A社：100（百万円）

B社：120（百万円）

Ⅲ

- 【問1】④ 【問2】③ 【問3】④ 【問4】② 【問5】④ 【問6】② 【問7】③
 【問8】① 【問9】③ 【問10】② 【問11】④ 【問12】④ 【問13】② 【問14】④

<資料1> 連結貸借対照表 (空欄部分)

	X 1 年度	X 2 年度
流動資産		
棚卸資産	(ア 18,800)	15,600
その他	(26,800)	33,800

<資料2> 連結損益計算書 (空欄部分)

	X 1 年度	X 2 年度
売上高	(561,600)	(イ 591,800)
売上総利益	(162,200)	(167,800)
営業利益	(33,200)	(34,600)
経常利益	(37,200)	(43,800)
税金等調整前当期純利益	(38,800)	(46,800)
当期純利益	(25,000)	(32,600)
親会社株主に帰属する当期純利益	(24,400)	(31,800)

<資料3> 連結キャッシュ・フロー計算書 (空欄部分)

	X 1 年度	X 2 年度
営業活動によるキャッシュ・フロー		
(税金等調整前当期純利益)	(38,800)	(ウ 46,800)
減価償却費	(20,800)	(19,000)
投資有価証券売却益	(△1,000)	(エ △1,200)
投資有価証券評価損	(400)	(オ 400)
受取利息及び受取配当金	(△2,600)	(△2,400)
小計	(34,400)	(61,000)
利息及び配当金の受取額	(2,800)	(2,800)

各指標は、以下のとおりです。

	指 標	X 1 年度	X 2 年度	
【問 5】	正味運転資本(百万円)	235,600	226,600	
	当座比率(%) ※1	247.1	227.8	
	・当座資産(百万円) ※1	319,200	315,800	
	当座比率(%) ※2	267.8	252.2	
	・当座資産(百万円) ※2	346,000	349,600	
【問 6】	固定長期適合率(%)	65.1%	68.3%	
	自己資本比率(%)	76.8%	75.7%	
【問 7】	総資本事業利益率(%)	4.6%	5.2%	
	・事業利益(百万円)	36,600	44,000	
【問 8】	売上高事業利益率(%)	6.5%	7.4%	
	総資本回転率(回)	0.7 回	0.7 回	
【問 9】	自己資本当期純利益率(%)	3.9%	4.9%	
【問 10】	売上高当期純利益率(%)	4.3%	5.4%	
	財務レバレッジ(%)	130.2%	132.0%	
【問 11】	セグメント売上高利益率(%) ※1	A 事業	6.2%	6.0%
		B 事業	10.3%	6.3%
		C 事業	1.8%	5.0%
	セグメント売上高利益率(%) ※2	A 事業	6.1%	6.0%
		B 事業	10.0%	6.0%
		C 事業	1.4%	4.0%
【問 12】	セグメント資産利益率(%)	A 事業	5.8%	5.5%
		B 事業	7.3%	4.5%
		C 事業	1.2%	3.5%
【問 13】	売上債権回転期間(日)	103.5 日	100.3 日	
【問 14】	自己資本営業キャッシュ・フロー比率(%)	4.2%	7.3%	
	営業キャッシュ・フロー対流動負債比率(%)	20.3%	34.1%	

【問 5】

(イ) ※ 1 当座資産＝流動資産合計－棚卸資産－その他 で算定

※ 2 当座資産＝流動資産合計－棚卸資産 で算定

【問 11】

※ 1 売上高＝外部顧客への売上高 で算定

※ 2 売上高＝外部顧客への売上高＋セグメント間の内部売上高又は振替高（＝「計」欄金額）
で算定